

平成 13 年 1 月 25 日

首都圏第 3 空港調査検討会事務局に対する 横須賀金田湾海上空港の提案について

横須賀金田湾海上空港研究会（住友重機械工業株式会社、NTT コミュニケーションズ株式会社等民間企業 15 社で構成。事務局株式会社浜銀総合研究所）は、当研究会のオブザーバーである横須賀市・横須賀商工会議所で構成される三浦半島地域空港研究会と連名で、本日首都圏第 3 空港調査検討会事務局（国土交通省航空局）に対しまして横須賀金田湾海上空港の提案書並びに提案書の参考資料として、当研究会が行っております「横須賀金田湾海上空港検討調査」の中間まとめを提出いたしましたので、ご案内いたします。

提案書の主たる内容は、第一に、首都圏第三空港は羽田空港の補完として捉えるのではなく、首都圏全体の空港需要の観点から考察しなければならないとの考えから、首都圏全体の将来航空需要の試算を行い、これを背景として羽田空港、成田空港、首都圏第 3 空港それぞれに求められる役割についての考察を行っております。この中で、我々は羽田空港については最近話題となっております羽田空港の再拡張が行われたとしても、国内線需要への対応だけで羽田空港の容量はほぼ一杯となってしまう、また成田空港についても平行滑走路完成後極めて短期間で容量不足に陥るとの結論に至りました。近時は羽田空港の再拡張が行われれば、新たな空港整備は不要になるとの意見も出てきておりますが、私どもでは首都圏内に少なくとも後 2 本の滑走路が早急に整備される必要があるとの考えを述べております。

第二に、横須賀金田湾の首都圏第 3 空港候補地としての適性について、様々な観点から考察しております。我々は、横須賀金田湾が国内線空港・国際線空港それぞれの観点から、十分な後背圏を有していると考えており、また羽田空港の離発着経路との調整が比較的行いやすいと考えられることから、首都圏の空港容量の拡大という命題の解決に大きく寄与することができるものと考えております。更に、横須賀金田湾海上空港はモーダルシフトに対する社会的な要請に応え得る空港であるといえます。すなわち、横須賀金田湾海上空港は東京湾口に位置することから、現在様々な研究及び運航に向けた諸準備が行われている高速海上輸送機関との連携が極めて容易であると考えております。

このような議論を展開した後に、横須賀金田湾海上空港計画の概略について述べております。横須賀金田湾海上空港への需要は、羽田空港の再拡張の実施如何によって大きく変わってくることから、今回は単一滑走路の場合を主としながらも、二本の平行滑走路をオープンパラレルで配置した場合の案についても検討を行っております。

いずれにいたしましても、今回私どもが示しました需要予測結果をはじめとする種々の考え方が、広く首都圏における空港問題への関心を高めることにつながれば、幸いであると考えております。

【本件に関するお問い合わせ先】

横須賀金田湾海上空港研究会事務局
株式会社浜銀総合研究所 研究開発部

大島、土野、貝畑

電話 045-225-2372(ダイヤルイン)